

よりよい生活を営んでいく可能性を見出す力を

育む家庭科の授業づくり

—中学校家庭科における家族・家庭分野の授業実践を中心に—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（家庭）

庄司 直矢

本研究実践では、中学校家庭科の授業を通して、人権意識に基づく自己信頼感を形成し、現状の生活や環境を批判的に捉えることができる生徒の育成を目指した。そのために、批判的教育学の「意識化」やフェミニスト・ペタゴジーの「情動」概念をもとに手立てを構築し、授業を実践し、その有効性を検討した。分析では、生徒の振り返りを分類軸と照合し、よりよい生活を営んでいく可能性を見出す力が育まれたか検討した。

その結果、人権に関して無意識・他人事だった生徒が、その重要性を認識し、環境を変えようとする姿勢を身につける傾向が見られた。また「権利を知る」「自己の経験を振り返る機会」「意見・経験を可視化し対話を深める」「子どもの権利に関する社会的・具体的事例に触れる」ことが意識の変容を促す重要な要素であることが明らかになった。今後の課題として、分析対象を拡大し結果の一般化を図ること、「ざわめき」の可視化と影響分析、批判的思考を創造的思考へ発展させる授業方法の確立が求められる。